

2016年7月26日改訂版

2016年7月8日 東京2020大会 持続可能性DG 崎田裕子 提出資料

■「持続可能な未来」をめざす「東京2020運営計画への連携プラン提案」

持続可能な調達に向けて

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

検討会合は2016年6月10日

「地球環境基金」助成事業として実施

持続可能性と東京2020ビジョン

■IOC2014年12月採択
「オリンピック・アジェンダ2020」

オリンピック競技大会の総ての側面に持続可能性を導入すること。オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する。

＜東京2020大会ビジョン＞

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、「すべての人が自己ベストをめざし(全員が自己ベスト)」、「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう(未来への継承)」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

「街づくり・持続可能性」専門委員会
アクション&レガシープラン検討

「持続可能性」ディスカッションG
「運営計画」「調達コード」等検討
提案募集も実施

「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」＜東京2020大会が目指すべき持続可能性の方向＞

- 環境だけでなく、社会、経済の側面を含む
- 東京の特徴を活かす。充実した都市基盤・安全性、おもてなし・もったいないといった日本的価値観、最先端テクノロジー(より高度な省エネ・再エネ・リサイクル等環境対策技術)の活用など

運営計画 5つのテーマ

- ①気候変動(ローカーボンマネジメント)
- ②資源管理
- ③水・緑・生物多様性
- ④人権・労働・公正な事業慣行等への配慮
- ⑤参加・協働、情報発信(エンゲージメント)

- 計画実現に活用する3つのツール
- ア 持続可能なイベントマネジメントシステムISO20121
 - イ 持続可能性に配慮した調達コード
 - ウ オリンピック大会影響調査

持続可能性に配慮した調達コード<基本原則>

- ①どのように供給されているか
- ②どこから採り、何を使って作られているのか
- ③サプライチェーンへの働きかけ
- ④資源の有効活用



東京2020で考える、そもそも必要な「食料への配慮」とは？

全般への配慮～安全・安心な食の提供～

- 食品安全と衛生管理(法令順守・トレーサビリティ含む)
- 宗教や各国の文化を尊重した食の提供
- 総ての段階での食品ロス削減と循環利用

ロンドン2012:6項目の調達指針

- 地元産(輸送距離短くCO2削減)
(自国の農家支援と保護)
- 持続可能な農業・林業・漁業
- オーガニック
- 季節の野菜・果物
- フェアトレード
- 栄養バランスに優れたメニュー

東京2020:日本らしい追加項目

- 災害復興支援(東北・熊本)
- 和食メニューでおもてなし
- 中小事業者への配慮

東京2020の持続可能な「食料」調達指針のイメージ

- ① 食品安全と衛生管理（法令順守・トレサビリティー含む）
 - ② 宗教や各国の文化を尊重した食の提供
 - ③ 和食メニューで日本の良さをアピール
 - ④ 地元産・国産（輸送距離が短くCO2削減、自国の農家支援と保護）
 - ⑤ 食品ロス削減と循環利用の徹底
 - ⑥ 持続可能な農業・漁業（海のエコラベル・フェアトレード・オーガニックなど）
 - ⑦ 季節の野菜-果物-海産物（旬のもの）
 - ⑧ 栄養バランスに優れたメニュー
 - ⑨ 災害復興支援（東北・熊本県産品の重視）
 - ⑩ 中小企業の産物の活用
- 全国の農家もオリンピックを支え、持続可能な農業が推進される



この指針を実現するための、食料調達に関する配慮項目は？

「食料調達指針」実現に向けた配慮項目 案 (番号は前のページに対応)

- (全般) ①食品安全と衛生管理(国際・国内安全・衛生規制、トレーサビリティ)
 - ・調達供給への対応(供給量とその十分性、経済性)(⑩含め対応)
 - ②宗教上の配慮
 - ③日本らしさ、和食などの日本食への配慮
- (環境)・放射線に対する懸念
 - ・環境保全(自然環境保全、生物多様性)
 - ④温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の低減
 - ⑤循環型社会(サプライチェーン)、食品ロスへの配慮
- (社会) ⑥労働環境への配慮
 - ⑥人権侵害への配慮
 - ⑥⑦⑧⑨地域貢献(持続可能なコミュニティ形成への貢献)
- (経済) 国際制度としての認知(適合性評価)
 - 制度参加のためのコスト(適合性評価、認証費用、経済性)
 - 紛争対応のためのコスト(適合性評価、事故対応、持続可能性ルール違反、法規制違反)
- ・GIマークなどの地域表示制度

食の国際認証マークに関する配慮項目の特徴	レッド トラクター	MSC・ ASC	フェア トレード	2016.7.26 改訂版
全般) 食品安全と衛生管理 (国際・国内安全・衛生規制、トレーサビリティ)	○	○		
調達供給への対応(供給量とその十分性、経済性)海外産△ 国内産○ 難点;物品によって供給量に差がある(MSC, ASC, フェアトレード)	○	△○	△	
宗教上の配慮				
日本らしさ、和食などの日本食への配慮	○			
環境)放射線に対する懸念				
環境保全(自然環境保全、生物多様性)		○	○	
GHG排出量・エネルギー使用量の低減	○			
循環型社会(サプライチェーン)、食品ロスへの配慮		△	△	
社会)労働環境への配慮		○	○	
人権侵害への配慮			○	
地域貢献(持続可能なコミュニティ形成への貢献)	○	○	○	
経済)国際制度としての認知(適合性評価) 認定制度による保証がない△	○	△	△	
制度参加のためのコスト(適合性評価、認証費用、経済性)	要確認	要確認	要確認	
紛争対応のためのコスト(適合性評価、事故対応、ルール・法規制違反)	○	要確認	要確認	
・GIマークなどの地域表示制度	○	要確認	要確認	6

食の制度と国際標準

国際規格を活用した制度とその認証を取得した事業者は、次について対応されている環境であるといえる。例えばGFSI承認制度、GSSI承認制度などがあげられる。

- ・ 法規制への順守
- ・ 食品安全と衛生管理に関する配慮
- ・ サプライチェーンの配慮
- ・ トレーサビリティ
- ・ 透明性
- ・ 公平性
- ・ 利害抵触の回避

持続可能性 環境・経済・社会的側面をとらえると...

ISO14001・ISO9001・ISO45001 (OHSAS) は、国際規格として、法規制への順守、サプライチェーンへの配慮、トレーサビリティ、透明性、公平性、利害抵触などへの配慮を共通に踏まえた上で、環境 (ISO14001)、品質 (ISO9001)、労働安全衛生 (ISO 45001)の各側面について、より強化された要求事項を設定している。そのため、この3つの認証を取得されている事業者は、持続可能性の環境・経済・社会的側面についてより強化した対応を自主的に実施しているといえる。

「オリンピック・パラリンピックのレガシー」は 未来への懸け橋！

東京2020を「次の暮らし・仕事・街づくり・国づくり」を
みんなでめざす契機にするために、
市民・企業・行政の連携による検討を提案する等
多様な主体の協働のプラットフォームづくりを進めています



参考：ロンドン視察報告

「みんなで創る オリンピック・パラリンピック」

崎田裕子・鬼沢良子・足立夏子：
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 編著
松田美夜子監修 環境新聞社 2015
<http://www.genki-net.jp/>

別添資料「持続可能性と食の制度の特徴」2016. 6. 10(6. 24改訂)